

骨格標本のコレクションから生物の暮らしを読み取ろう
～東京大学総合研究博物館 インターメディアテクに行こうシリーズ①～

この標本は明治10年に研究のために作成された標本です。100年以上経っても残る学術標本の価値が感じられますね。



カエルの標本のケースを正面に見て右手側

インターメディアテク

2 階 A地点

カエル交連骨格標本コレクション



1

カエルの「強大な推進力」はどこから



「腰から後肢にかけての骨格は他に例のない形態であり、強大な推進力を生む」と解説にありますが、カエルの強大な推進力が生じるのはカエルの骨格のどのようなつくりにあるのかを、標本をみて考えてみよう。



腰から後肢にかけての骨格の様子をスケッチしよう



カエルの種類によって共通点と相違点があることに着目して考えよう。

インターメディアテク

2 階 B地点

東京帝室博物館復興本館
(現東京国立博物館本館) 展示ケース



2

海を泳ぐ生き物の共通点を見つけよう



ここには海を泳ぐ生き物 (サメ・カサゴ・マトウダイ・スズキ・バンドウイルカなど、魚類や海生哺乳類が展示されています。骨格を比較して、海を泳いで生活する生き物にはどのような共通点があるかを見つけよう。



スケッチしたり文章で表現したりするなど、わかりやすく工夫して表現しよう。

明治5年(1872)年に開館した東京国立博物館は関東大震災で被害を受けたことにより復興が図られ、昭和12年(1937)年に竣工したそうです。



入り口側の壁側へ



3 様々な哺乳類の骨格の特徴を観察しよう



「これらの標本は動物が生きるための『形』の進化の果てにある『形』を示してくれる」と解説にありますが、いくつかの標本の中から骨格の『形』に着目して観察し、進化の果てにある形にはどのような特徴があるか見つけ出そう。



何種類かの生物の同じ部位（例えば前肢、肋骨、骨盤、後肢、歯など）の骨格に着目して比較すると、形の違いが見えてきます。

ケースの中には30点の全身骨格標本コレクション、頭骨コレクションなどが展示されています。



骨格標本からわかることや、標本がもつ魅力とは何だろう



感じたこと

わかったこと

考えたこと



新たな疑問

もっと知りたくなったこと

年

組

番

氏名